WEB 版
わすれなぐさ
菊陽町図書館 少女雑誌の部屋だより
VOL.40　2023 年 7 月　JULY（文月）

少女雑誌の部屋から

今年は挿絵画家・中原淳一 生誕 110 年の年にあたります。昨年 11 月に発行した少女雑誌の部屋だより『わすれなぐさ』(中原淳一特集号)でもご紹介しましたとおり、淳一は少女たちにとって憧れであり、カリスマ的存在でした。そんな淳一が自ら出版社を立ち上げて、少女向けに創刊した雑誌が『ひまわり』です。
戦後、まだ用紙も不足していた頃に出版されたため、最初のうちは 30 ページほどの薄さだった時期もありましたが、誌面は細かな文字でぎっしりと埋められていて、内容も充実していました。
当時の少女たちに送られたメッセージの数々は、時を越えて今なお私たちの心をとらえて離しません。

ひまわり

ひまわり社

挿絵画家・中原淳一が刊行した女性向けの季刊雑誌『それいゆ』の姉妹誌として創刊された十代の少女のための月刊誌。淳一は編集に加え、表紙絵、口絵、挿絵、ふろくなども自ら手掛け、読者たちを魅了した。
どんな状況下でも、少しの工夫と心がけで心豊かに美しく生きられる、というメッセージのもと、その内容は文学・音楽・美術・身だしなみ・マナーなど多岐にわたった。
単なるおしゃれだけの、教養ばかりの雑誌でもない、少女たちの夢がつまった特別な存在だった。（創刊 昭和 22 年 1 月号～終刊 昭和 27 年 12 月号）

『ひまわり』で活躍した作家

西條 八十（さいじょう やそ）1892-1970

東京都生まれ。早稲田大学英文科卒。大正 7 年に創刊された児童雑誌『赤い鳥』の 11 月号に童謡「かなりあ」を発表。成田為三により曲がつけられ、日本初の芸術童謡として絶賛を博す。その後、大正 11 年 4 月より『童話』の童謡欄を担当。童謡以外に多くの外国童謡の翻訳、新人養成に力を尽くした。その他、多くの雑誌で少年少女小説や推理小説なども書いた。

村岡 花子（むらおか はなこ）1893-1968

山梨県生まれ。大正 3 年、東洋英和女学院高等科卒。昭和 2 年にマーク・トウェインの『王子と乞食』を翻訳出版。以後、日本を代表する外国文学の翻訳家として活躍。L.M.モンゴメリ作『赤毛のアン』シリーズ、エレナ・ポーター作『少女パレアナ』、チャールズ・ディケンズ作『クリスマス・キャロル』など多くの翻訳を手掛けた。評論家としても活動した。

たのしみかたいろいろ

編集長・中原淳一の美意識が詰まった雑誌『ひまわり』
誌面のいたるところに淳一と編集スタッフの熱意があふれていました。

海外通信

女性も広い視野を持ってほしいとの思いから、海外の動向や海外経験を持つ若い女性による記事を掲載。昭和 26～27 年、淳一がパリに滞在していた折には「パリ通信」としてメッセージや写真が紹介されました。

みだしなみせくしょん

淳一の図解入りファッションエッセイ。女学生らしさを失わず、自分の置かれた地位と年齢に最もふさわしい服飾について毎月読者と共に考えようというコーナー。

ふろく

戦後すぐに出版されたため、豪華なものはありませんが、小さいながらも少女たちに大きな喜びを与えました。

読者文藝

読者から送られた詩、作文、短歌、おたよりなどが掲載されるコーナー。読者同士の交流をはかる欄には全国各地からさまざまな声が寄せられました。投稿をきっかけに手紙の交換をはじめた少女もいたようです。

参考文献：『別冊太陽 中原淳一のひまわり』（平凡社）、『中原淳一 少女雑誌『ひまわり』の時代』（河出書房新社）、『日本児童文学大事典』（大阪国際児童文学館編）ほか

企画展　生誕 100 年記念「藤井千秋展」2023.5/18～7/17